DVI Detective

EDID信号保持機

型番: EXT-DVI-EDIDN

取扱説明書

2008年6月版

安全上の注意

この度はGefen製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。機器のセッティングを行う前に、この取扱説明書を十分にお読みください。この説明書には製品扱い上の注意や、購入された製品を最適にお使いいただくための手順が盛り込まれています。将来にわたるご使用のためにも、製品の梱包箱と取扱説明書は保存していただくことを強くお奨めいたします。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 警告　この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- 必ず製品付属のACアダプターを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。
- AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電する恐れがあります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、本体や電源ケーブル・プラグが破損した等の異常があるときは、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

 注意　この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- 万一、落としたり破損が生じた場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- 以下のような場所には設置しないでください。
  直射日光の当たる場所/極度の低温または高温の場所/湿気の多い場所/ほこりの多い場所/
  振動の多い場所/風通しの悪い場所
- 配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。

目次

はじめに

DVI Detectiveは、EDID信号を読み取り記憶する装置です。PCに接続された外部のプロジェクターやプラズマディスプレイなどを移設する際に手間を軽減することができます。

DVI Detectiveを接続すると、PCへはDVI Detectiveに保存されたEDID信号が送信し続けられます。そのためディスプレイの接続を外しても、PCはディスプレイは接続され映像は表示され続けていると認識します。こうしてディスプレイを外して移動し再度接続するような場合でも、PCを再起動させる必要はありません。
設置作業全体から見たときのDVI Detectiveがもたらす利点として、より少ないケーブルにより接続箇所も少なくすませられるという点があげられます。デジタルディスプレイやプロジェクターの拡張も楽に行うことができます。ユニットは小型軽量でまったく目立ちません。DVI DetectiveはDVIポート、あるいはアダプターを使用してADCポートに接続できます。すべてのデジタルディスプレイ(DVI)、アップル社製のフラットパネルディスプレイ(ADC)に対応します。アナログディスプレイのEDIDであっても、VGA-DVIアダプターを使用してDVI Detectiveの入出力と接続すれば、DVI Detectiveを利用することが可能となります。

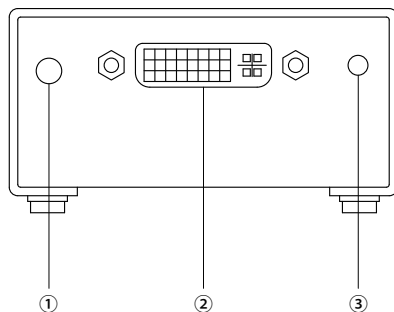
機能

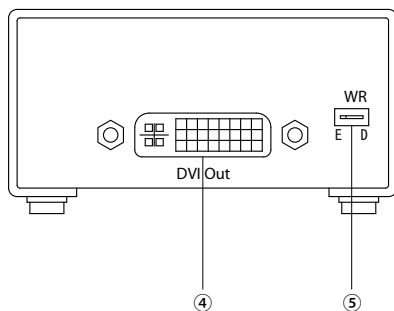
・ 初期設定のプログラムが済んだ後は電源の接続は不要です。
・ 有効にされているPCのDVIポートを無効にする作業が不要となります。
・ シングルリンク、デュアルリンクの最高解像度のスペックは保たれます。
・ すべてのデジタルとアナログのディスプレイに対応します。
・ 設置は簡単です。

同梱品

DVI Detective本体	1
DVIケーブル(29ピン、オス-オス、約25cm)	1
専用ACアダプター (AC100V 50/60Hz、DC5V出力)	1
取扱説明書	1

各部名称

前面パネル

①	**Prog.**スイッチ	EDIDをプログラムします。→P5
②	**DVI In**コネクター	映像ソース機器の出力ケーブルを接続します。
③	**Power** LED	DVI Detectiveの作動状態を表示します。→P5

背面パネル

④	**DVI Out**コネクター	ディスプレイの入力ケーブルを接続します。
⑤	**WR**スイッチ	設定された状態を誤って書き変えないように保護します→P6 <E> 書き込み有効 <D> 書き込み無効

DVI Detectiveの接続と操作方法

1. まず、DVI Detectiveの背面にあるライトプロテクト用のWRスイッチが<E>の書き込み有効の位置になっていることを確認します。

2. ディスプレイの電源は切った状態でディスプレイとの接続ケーブルをDVI Detectiveの**DVI Out**コネクターに接続します。接続したらディスプレイの電源を入れます。

3. DVI Detectiveに付属のACアダプターを接続し、ACアダプターをコンセントに差します。ユニット前面の**Power** LEDが点灯します。

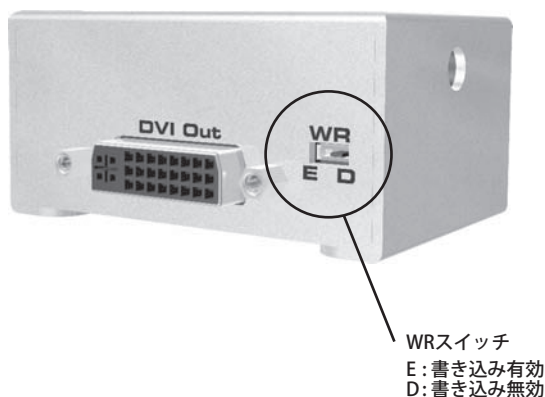
4. DVI Detectiveの前面にある**Prog.**スイッチを押してEDID信号の記録を開始します。記録中は**Power** LEDは点滅となり、DVI Detectiveへの記録が完了するとLEDの点滅が止まります。

5. EDIDの記録が完了したら、DVI DetectiveからACアダプターを外します。このとき誤って記録された設定を上書きしてしまわないよう、**WR**スイッチは<**D**>の位置にしておくことをおすすめします。

6. DVI DetectiveのDVI Inコネクターに映像ソースの出力ケーブルを接続します。

> **注意:**
> 映像ソースにPCを使用する場合には、すべての接続が完了したらPCを再起動します。

DVI Detectiveの設定を保護する

DVI Detectiveの設定が完了し動作が確認できたら、DVI Detectiveを誤って別の設定にしてしまうことがないようにプロテクトをかけておくことができます。これは**WR**スイッチを<**D**>の書込み無効(Disable)の位置にするだけで完了します。工場出荷時は、このスイッチは<**E**>の書き込み有効(Enable)の位置になっていて、ただちに記録を行えるようになっています。DVI DetectiveにEDID信号を記録するときには、このスイッチは<**E**>の位置になっていなければなりません。<**D**>になっているとき操作はすべて無効となります。

DVI Detective仕様

ビデオアンプ帯域幅	165MHz
入力映像信号	1.2V p-p
入力DDC信号	5V p-p (TTL)
最大サポート範囲	1920×1200(シングルリンク)、3840×2400(デュアルリンク)
DVI入出力コネクター	DVI-I 29ピン、メス
電源	5V DC (専用ACアダプター、AC100V 50/60Hz)
消費電力	5W (最大)
寸法	69(W)×33(H)×46(D)mm (突起、コネクター、ゴム足含まず)
質量	約86g